

家庭科

浅田幸子

1 家庭科の本質について

家庭科では、教科の本質を次のようにとらえている。

家族や家庭生活に対する理解を深め 家族の一員として家庭生活をよりよいものにして
いこうとすること

「家族や家庭生活に対する理解を深め」とは、子ども一人一人が家族への思いを新たにしたり、衣食住などに関する家庭生活の意義を認識したりして、毎日の自分の暮らしに対する思いを強めていくことである。

家庭は家族が互いに尊重し合い、協力し合ってよりよい生活を営んでいこうとしているところであり、子どもも家族に支えられながら、自分の生活をよりよくしたいと願っている。自分の生活の場をよく見つめ、家族や家庭生活に対する理解が深まることによって、子どもは、生活の主体者として自分なりの思いを描いて、問題を解決したりよりよい暮らしをめざしたりできるようになると思われる。

家庭は、社会の変化にともないその機能は縮小してきているが、子どもの人間形成に関わる重要な機能があることは変わっていない。家族から認められるという満足感を味わいながら、子どもも家族の一員として生き生きと実践を続けていくことを期待している。

つまり家庭科の本質とは、自分の家庭を見つめることによって、家族や家庭生活に対する理解を深め、家族の一員として家庭生活をよりよいものにしていこうとすることと考えている。

2 本質にもとづく基礎・基本について

上記の本質にもとづく家庭科の基礎・基本とは何だろうか。

それは、家庭生活に必要な基礎的知識の習得や技能の習熟を図ることだけとは考えていない。自分の生活の場である家庭生活を見つめて問題をとらえ、一人一人の思いをもって工夫して解決していく能力を身につけていくことが大切であると考えている。

例えば、「目玉焼きを焼く」という技能は、フライパンを使って卵を焼くことは共通しているが、どのように焼くかは、子どもの思いによって一人一人違うのである。「白い膜がはったように焼きたい」「固く焼きたい」「黄身がとろりとしたやわらかめに焼きたい」など、一人一人が自分の課題に向かって調べたり考えたり、試したり工夫したりしながら意欲的に取り組み、自分の課題を解決していく力が大切なのである。

また、解決の過程において衣食住の生活に必要な知識や技能を身につけることも基礎・基本であるととらえたい。

そこで、家庭科における基礎・基本を次のように考えた。

自分や家族のよりよい暮らしをめざし 主体的に関わり 創意工夫して身近な問題を
解決しようとする事
また 解決のために必要な知識や技能を身につける事

家庭科の学習で、基礎・基本が獲得されることにより、子どもは小学生なりに一人の生活者として自分の家族を思いやり、それぞれの暮らしを高めていこうとする生き方につながるものと考ええる。

3 自己の学びを広げ深めるについて

家庭科における自己の学びを広げ深めるとは、自分なりの解決方法で衣食住に関する問題を追究し、家族や家庭生活に対する見方や考え方の深まりを自覚しながら実践力を高めていくことであると考えられる。

では、子ども一人ひとりが、家族の一員として家族や家庭生活への思いを変容させ、さらにはそれを実践に結びつける学びとは、どうあればよいのであろうか。これまでの実践と、今年度の重点である「自らの活動を促すゆとり」と「一人一人の活動を見てとり生かす」を加味して、次のように考えた。

(1) 家族や家庭生活を見つめ、自分なりの見方・考え方がもてる場を設ける

家庭科の学習の対象は、家族や家庭生活である。しかし、子どもは毎日の生活の場でありながら、無意識に生活していることが少なくない。そこで、毎日の生活では気づいていないことや見えていないことに対して関心を向けたり、調査・観察する期間を設けたりして、家族の役割や何気ない衣食住の営みが意義あるものであることをとらえさせたい。改めて自分の生活をじっくり見つめることによって、家庭生活に意外性を感じたり、家族に共感をもったりして、家庭生活に対する自分なりの考えを持つことができると思われる。

(2) 自分の思いをもって、実践的・体験的に解決していく学習展開にする

子どもは、これができるようになりたい、もっと上手になりたい、家族に～してあげたい、どうして～するのだろうなど家庭生活に対して様々な願いや疑問をもっている。それらを大切に問題を設定してきた。その問題解決にあたっては一人一人が自分の思いをもって実際に試してみたり、資料の収集や活用を図ったりする実践的・体験的な活動の場と時間を保障していきたい。その活動によって、子どもは衣食住などに関する知識や理解を得るだけでなく、技能の習得がより効果的になると同時に、新たな問題を解決したり創意工夫する楽しさを味わったりすることができると思う。

(3) 自己評価や相互評価を工夫する

子どもの「分かった、できた」から、もっとやりたい、もっと工夫してみたいという意欲を喚起することにより、自己の学びはさらに深まってくると思われる。この学習過程において、自己の高まりを実感しながら、自分に自信がもてるようにしていきたい。そのために、自分自身で学習の過程や結果を記録に残す自己評価や友だち同志で認め合ったり交流し合ったりする相互評価を授業後に効果的に組み込んでいきたい。自分の思いや活動が家族や周囲の人々に認められることにより、自信が生まれ、満足感を得ると同時に家族や家庭生活に対する見方・考え方は変容し自分にできることを意欲的に進めていくと思われる。